

# ■ 水深・水温計測表示の使いかた(水深・水温計測、潜水メモ、深度アラーム)

- 水深は0.1m単位で、40mまで計測できます。計測は3秒毎に行います。(最初の20秒は1秒毎)
- 水温は0.1 単位で、-10 ~ +50 まで計測できます。計測は3秒毎に行います。
- 最大深度や深度グラフで潜水の様子を表示でき、最大5個までメモとして残せます。
- セットした深度を感知するとアラーム音を鳴らすことができます。
- 時間計測は最大10時間まで計測可能です。1時間までは秒単位で計測します。

**こんな使いかたができます**

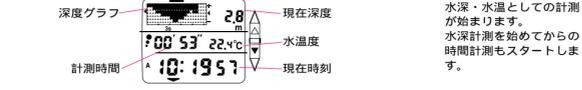
**水深・水温計測表示での使用例**

- この表示での機能をご理解していただくため、使用例で説明します。
- <例> スキンダイビングを楽しむ。

**行動内容:**

- 海に入る前に水深・水温計測表示にする。
- 海に入り、3回潜る。
- 1回目: 2 ~ 3 m
- 2回目: 4 ~ 5 m あらかじめセットした深度アラームが鳴り5.0mに達したことが分かった。
- 3回目: 3 ~ 4 m
- しばらく休憩するため岩場上がり、今潜った様子をメモに残す。休憩後、再度スキンダイビングを始める。(再スタート)
- 夕方、家に戻り今日のスキンダイビングを振り返る。岩場でメモした内容を読み、スキンダイビングを始めた時刻や最大深度・潜水グラフでその様子を表示できる。
- また、今まで一番深く潜った記録が自動的にメモリーされていて、「7.2m」であり、それが具体的な使いかた
- 潜る前に表示を切り替え、深度アラームをセットしたい場合はここでセットしてください。(「深度アラームの使いかた」参照)

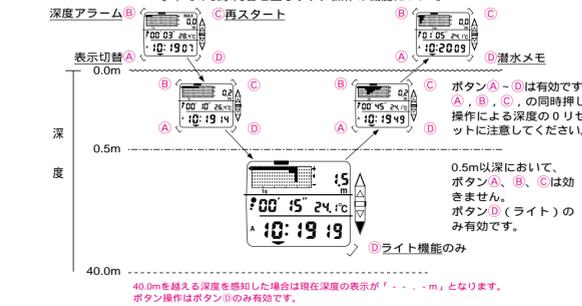
ボタンAを押して「水深・水温計測表示」にしてください。



この表示に入るとすべての計測がスタートしますので、今から計測をしたいときはボタンCを押してください。

各計測が再スタートします。(計測時間は0秒から再スタートします)

<水中での表示内容と主なボタン操作の機能について>



**【ご注意】**

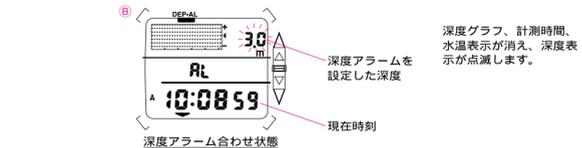
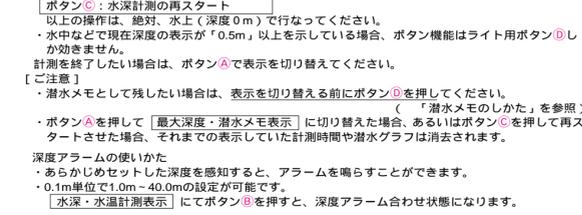
- ボタンCを押して再スタートすると、それまで計測していた時間と深度グラフが消去されます。
- 水中(現在深度0.5m未満の時)で、ボタンA-Cを押してしまうと、その時の深度を0mとして、計測してしまいますのでご注意ください。

ボタンA: 表示の切り替え  
ボタンB: 深度アラームの設定  
ボタンC: 水深計測の再スタート

以上の操作は、絶対、水上(深度0m)で行なってください。

水中で表示の表示が「0.5m」以上を示している場合、ボタン機能はライト用ボタンDしか効きません。

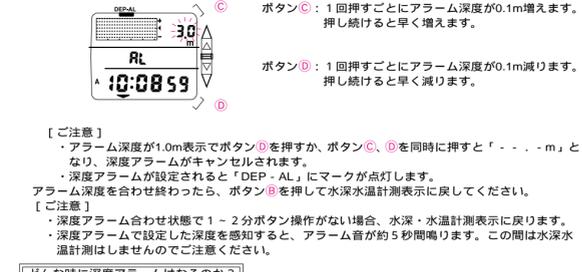
計測を終了したい場合は、ボタンDで表示を切り替えてください。



**【ご注意】**

- 深度アラーム合わせ状態になると、計測をしていた水深・水温・時間計測を中止します。ボタンBを押して表示を戻すと、再スタートになります。
- この深度アラーム合わせは0.5m以上の水中ではできません。また、0.5m未満の水中で行った場合、その時の水深を「0m」と測定してしまいますので、ご注意ください。

ボタンC、Dを押してアラームを鳴らしたい深度に合わせます。



**【ご注意】**

- アラーム深度が1.0m表示でボタンDを押すが、ボタンC、Dを同時に押すと「...m」となり、深度アラームがキャンセルされます。
- 深度アラームが設定されると、「DEP・AL」にマークが点灯します。
- アラーム深度を合わせ終わったら、ボタンDを押して水深水温計測表示に戻してください。

**【ご注意】**

- 深度アラーム合わせ状態時1 ~ 2分ボタン操作がない場合、水深・水温計測表示に戻ります。
- 深度アラームで設定した深度を感知すると、アラーム音約5秒間鳴ります。この間は水深水温計測はしませんのでご注意ください。

**どんな時に深度アラームはなるのか?**

- セットした深度、あるいはそれを越える深度を感知した場合にアラームが5秒間鳴ります。
- 鳴鐘後、セットした深度をもう一度越えてもアラームは鳴りません。一旦0.5m未満の深度を感知してから、その深度を越えるとアラームは鳴ります。

**【ご注意】**

- 水中では環境・携帯条件により、深度アラームが聞こえにくい場合がありますので、ご注意ください。

**グラフの読みかた**

- 「深度」を上下の「縦方向」で、「時間」を左右の「横方向」で表示します。
- グラフは計測時間と深度により、自動的に変化します。
- 深度は1ドット当たり「0.3m」「1m」「3m」「6m」単位の4種類の表示方法で、グラフの縦方向に示します。
- 時間は1ドット当たり「1秒」「3秒」「15秒」「1分」「3分」単位と5種類の表示方法で、グラフの横方向に示します。
- 最大60分間のグラフを表示できます。

# ■ 時刻・カレンダーの合わせかた

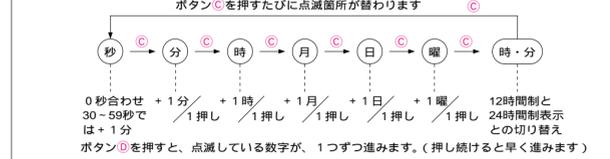
「水深水温計測表示」以外の表示からボタンAを引き出すことで、「時刻カレンダー合わせ」状態になります。



**【ご注意】**

- 水深・水温計測表示ではボタンAを引い出しても表示は切り替わりません。
- 水中や水が付いた状態でボタンAを引き出さないでください。故障の原因となります。

ボタンCを押して合わせたい箇所を点滅させ、ボタンDで合わせます。



**秒合わせについて**

- 「秒」を点滅させ時鐘に合わせてボタンDを押すと、「00秒」に合います。
- 「秒」が30~59秒の時、ボタンDを押すと「分」が1分繰り上がって「00秒」に合います。

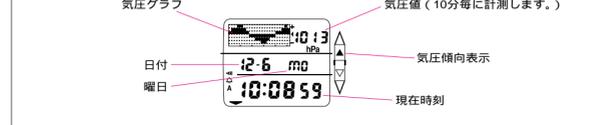
合わせ終わったら、ボタンAを元の位置に押し込んでください。

ボタンAを引出す前の表示に戻ります。(この場合は時刻・気圧表示に戻ります)

【ご注意】 ボタンAを引出した状態では気圧の計測を行いませんので、「時刻・カレンダー合わせ」が終わったら、ボタンAを必ず元の位置に戻してください。

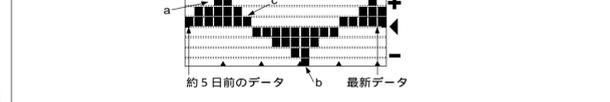
# ■ 時刻・気圧表示の使いかた(気圧グラフ、気圧傾向、気圧値など)

- 気圧グラフが5日分の気圧変化を表示します。
- 気圧傾向表示が気圧の変化傾向を示し、天気予測の助けになります。
- 気圧値が分かれます。



**【気圧グラフの読みかた】**

- 6時間毎の約5日分の気圧変化をグラフィックに表示します。
- この上昇下降傾向から、今後の変化傾向や天気予測の一助となります。



1日4回6時間毎に気圧変化を上下3つのドット(点: マーク)で表示します。

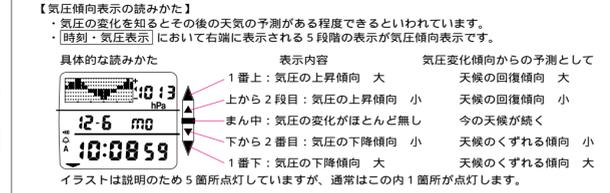
たとえば、上図グラフのa-cはそれぞれ次のように読みます。

- a: 気圧が上昇しつづけていたことを表します。( + 3 のデータ)
- b: 気圧が下降しつづけていたことを表します。( - 3 のデータ)
- c: 比較的稳定して変化がなかったことを表します。( + 1 のデータ)

上下のドット数は変化の度合いを示すものです。

**【ご注意】**

- 気圧グラフは気圧値のもののみを示すものではありません。あくまでも気圧の変化割合を示すもので、6時間に1回その間の気圧変化をグラフに表したものです。
- 場所の移動に伴う、気圧変化を自動的に補正しますので、移動による影響はグラフには表われませんのでご注意ください。



**【気圧傾向表示の読みかた】**

- 気圧の変化を知るとその後の天気の予測ができる程度といわれています。
- 「時刻・気圧表示」において右端に表示される5段階の表示が気圧傾向表示です。

**具体的な読みかた**

表示内容	気圧変化傾向からの予測として
1番上: 気圧の上昇傾向 大	天候の回復傾向 大
上から2段階: 気圧の上昇傾向 小	天候の回復傾向 小
まん中: 気圧の変化がほとんど無し	今の天候が続く
下から2段階: 気圧の下降傾向 小	天候のくずれる傾向 小
1番下: 気圧の下降傾向 大	天候のくずれる傾向 大

**気圧傾向表示についての注意事項**

- この気圧傾向表示は、あくまでも気圧の変化を計測表示しているものです。天候の変化をすべて予測できるものではありません。
- 特に夏の夕立・雷雨・冬の日本海側を中心とした雪など、気圧傾向には表れない、または、全く逆の傾向を示す場合もあります。
- 地域または、季節によっては特殊な気象変化がありますので、気圧傾向表示による天候予測が不可能な場合があります。

**気圧値についての注意事項**

- 気圧値は気圧配置の変化で同じ場所においても変化します。
- 飛行機内やビル内など圧力調整された場所およびトンネル内を走行中の列車内や自動車内、または温度変化が大きい場所では正しく気圧が計測できない場合があります。
- 気圧計測値が600~1050hPaの範囲を越え、範囲外の気圧を感知した場合、次のように表示します。「LoPa」「HiPa」。
- 水中あるいは、水圧がかかった場合などは、気圧が正しく計測できません。異常な数値指す場合がありますが、水圧の影響がなくなり次の気圧計測があると元に戻ります。水滴の影響により、「ErnPPa」(エラー)、「HiPa」などの表示がでる場合があります。水分をよく拭き取り、センサー部の穴に入った水滴を吹き飛ばしてください。(時刻・気圧表示)
- 特に水圧や水の影響が考えられない場合であっても、次の表示が出る場合は故障の可能性があるので、「取扱店」もしくは「サービスセンター」へご相談ください。「ErnPPa」「LoPa」「HiPa」。

このとき水深計測の異常が発生する可能性がありますので、水深計測はしないでください。

気圧値が正しいと考える場合、ボタン操作によって調整することができます。しかし、気圧計として信頼のおける他の測定器がある場所でのみ使用される以外は、絶対に行わないでください。

**気圧値の調整のしかた**

「時刻・気圧表示」においてボタンAを引出し「時刻・カレンダー合わせ」状態にします。

ボタンBを押して続けると、気圧値が点滅し、「気圧調整」状態になります。

ボタンCとDを押して調整します。

ボタンC: 1hPa増えます。

ボタンD: 1hPa減ります。

調整が終わったら、ボタンAを押し込んでください。

**【ご注意】**

- 気圧調整状態時1 ~ 2分ボタン操作がない場合、「時刻・カレンダー合わせ」に戻ります。
- この気圧調整は、電池交換時にキャンセルされます。

# ■ 各部の名称とはたらき

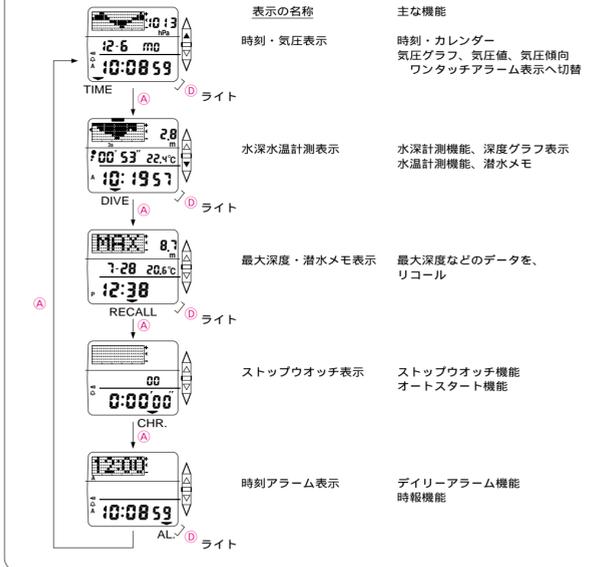


【ご注意】このイラストは「水深・水温計測表示」において計測中表示になっています。

# ■ 表示の切り替えとその機能について

この時計は、5つの主な表示を持っており、それぞれの表示毎の様々な機能を備えています。

ボタンAを押すと、表示が切り替わります。表示の下側に点灯する(→)マークが各表示の示します。



# ■ 水深・水温計測上の注意事項

**<水深計測について>**

- 0 ~ 40 の範囲でご使用ください。
- 電池寿命切れ予告「■」マークが点滅、点灯中の水深計測は行わないでください。
- 40m以上は「...m」表示になります。
- 水深・水温計測表示では時刻アラーム・ワンタッチアラーム・時報は鳴りません。
- この水深計測が海水(比重1.025)を基準に深度を計算してまいりますので、淡水などにおいて使用した場合は、実際の深度より浅く表示されます。
- 「時刻・気圧表示」の気圧値が異常値(Lo, Hi, Err)を示した場合、水深計測が正しく行われませんので、水深計測としてご使用にならないでください。
- 携帯温度と水温との極端な差(直射日光下に放置された時計を水中に入れる場合など)がある場合には、正確な水深計測はできません。ご使用前に時計を水に約5分程度浸してから「水深・水温計測表示」に切り替えてご使用ください。
- 「水深・水温計測表示」で長時間携帯した場合、より正確な水深を計測するために、一旦表示を切り替えるか、ボタンCを押して再スタートさせてください。
- 大幅な気圧・温度変化にあるところ、水深計測保証温度範囲(0 ~ 40)外で使った場合、深度表示に狂いが出るばかりでなく、陸上においても「0.5m」以上を表示する場合があります。この時ボタン操作ができなくなりますので、ボタンA、B、Cを同時に押し、「時刻・気圧表示」に戻してください。
- センサー部に入ったゴミ・砂等の異物は真水で洗い流してください。先の尖った物で触れると故障の原因になります。洗い流せない場合は、販売店、またはサービスセンターにご相談ください。
- センサー部にガソリン・アルコールなどの薬品が触れると、故障の原因になりますのでご注意ください。
- ボタンDによるライト点灯中と深度アラーム鳴鐘中は、水深計測はしません。
- この水中は、ボタンA/B/CのあるいはA/B/Cの同時押しは決してしないでください。システムリセットがかったり、水深計測を中止することになります。
- 深度表示が点滅している場合は、必要な操作に間違いがあった場合がありますので、もう一度「水深・水温計測表示」に切り替え直してください。
- 計測時間が60分を超えてから、0.5m未満の深度が60分続くと、自動的に「時刻・気圧表示」に戻ります。

**<水温計測について>**

- この時計の温度計は水温を計測するために、設計されています。
- 水中において「水深・水温計測表示」で表示される温度は、気温に近いものになりますが、体温の影響を受けているので、腕から出して実際の気温を測るには約20分かかります。
- 水温計測範囲(-10 ~ +50)外の温度を感知した場合、下図のような表示がされます。このような温度に時計を放置すると故障の原因になりますので、ご注意ください。

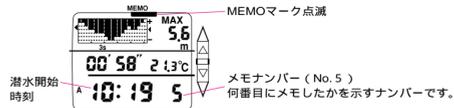
Lo	HI
< -10 未満 >	< +50 を超える >

## ■潜水メモのしかた [MEMORY]

- ・深度グラフ、最大深度、水温、潜水時間、日付け、時刻などがメモリーできます。
- ・潜った後、その潜水の最大深度や水温などを、潜水メモとして残すことができます。

水深水温計測表示で潜った後に以下の操作をします。

水深計測表示での使いかたは「水深・水温計測表示の使いかた」を参照  
水深水温計測表示で潜った後、深度表示が「0.5m」未満の数値を表示している状態でボタンCを押してください。



表示全体が点滅して「潜水メモ」したことがわかります。

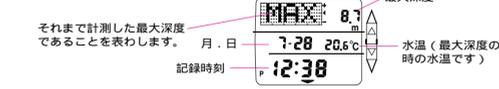
### 【ご注意】

- ・深度が「0.5m」以上の数値を表示している場合、ボタンDは表示のライトとしての機能のみ働き、潜水メモはできません。
- ・計測時間は、計測スタート時刻からボタンDを押すまでの時間になります。
- ・最大5個までのメモリーが可能です。それ以上メモリーすると一番古いデータから消去されます。
- ・メモをする前にボタンCを押して再スタートさせるか、ボタンAを押して表示を切り替えるとデータは消えてしまいますのでご注意ください。
- ・深度グラフは時間により、刻々と圧縮されますので、潜水メモで残したい場合は早めにこの操作をすることを勧めます。

## ■潜水メモの内容を見たいとき [RECALL]

- ・自動的にメモリーされた最大深度をみるすることができます。
- ・潜水メモをした内容を読み出して確認することができます。

ボタンAを押して、「最大深度・潜水メモ リコール表示」にしてください。  
まず「最大深度」の表示がでます。



【ご注意】この最大深度は「潜水メモ」とは関係なくそれぞれ計測した最大の値を記憶するようになっています。

次にボタンDを押すと潜水メモした内容が表示されます。  
ボタンDを押すに、次のような順番で表示されます。(潜水メモが5個ある場合)

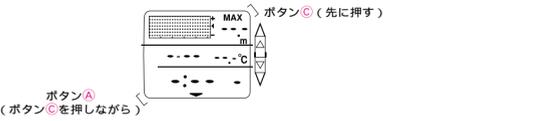


潜水メモの表示においてボタンCを押すと日付けの表示部分が計測時間に切り替わります。



最大深度・潜水メモを消去するには  
・最大深度のデータを消去できます。  
・記録した「潜水メモ」のデータを1つずつ個別に消去することができます。  
「最大深度・潜水メモ リコール表示」において、ボタンDを押して消去したいデータを読み出して  
ボタンC (先に押す)

消去したいデータを表示したまま、ボタンCを押しながらボタンAを1-2秒押し続けてください。表示が点滅し、その後表示が「- - -」表示となり、消去されたことを示します。

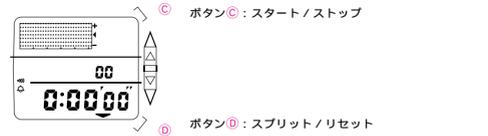


【ご注意】5つのメモリーのうちたとえばNo.3を消去した場合のように、途中のデータを消去し、さらに消去するデータがある場合は、 の操作から行ってください。

## ■ストップウォッチの使いかた [CHR.]

- ・1/100秒単位30時間計のストップウォッチです。
- ・設定した時間後に、自動的にスタートするオートスタート機能があります。5秒/10秒/30秒/1分/5分から選択して使用できます。
- ・スプリット機能もあります。

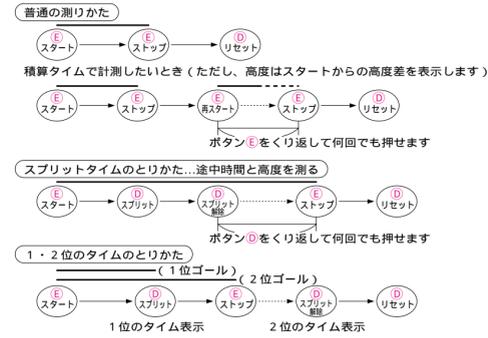
ボタンAを押してストップウォッチ表示にしてください。



ボタンC：スタート/ストップ

ボタンD：スプリット/リセット

ボタンCを押す毎にストップウォッチがスタート/ストップします。使う前に0秒にリセットしてください。  
・ストップ状態から、ボタンDを押すとリセットします。  
・「SPLIT」マーク点灯で「、」マークが点滅の場合は、ボタンCでストップさせてください。「、」マークが点灯状態から、ボタンDを2回押ししてリセットしてください。



オートスタート機能の使いかた  
・ストップウォッチをあらかじめ設定した時間が経過した後に自動的にスタートさせることができます。  
・「5秒」「10秒」「30秒」「1分」「5分」の中から選択し設定できます。  
「ストップウォッチ表示」においてまず0秒にリセットしてください。  
ボタンBを押すと、オートスタート時間合わせ状態になります。

オートスタート時間表示部が点滅します ( - - - : オートスタート時間無しの状態)



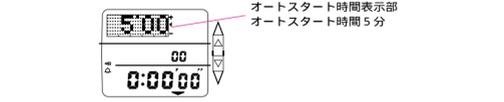
【ご注意】ストップウォッチ計測中やリセット前ではオートスタート時間合わせができません。  
ボタンCを押す毎にオートスタート時間が次の順番で選択できます。



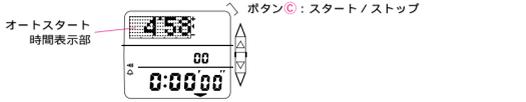
【ご注意】  
・「無し」を選択した場合、ストップウォッチは通常のスタートとなり、オートスタート機能は働きません。  
・オートスタート時間合わせ状態でボタン操作がない場合、1-2分でストップウォッチ表示に戻ります。

オートスタート時間を選択したら、ボタンBを押してストップウォッチ表示に戻してください。

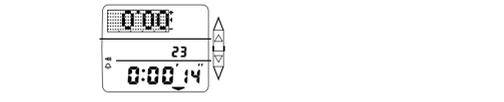
オートスタート時間 (5分を選択した場合) オートスタート時間表示部 オートスタート時間5分



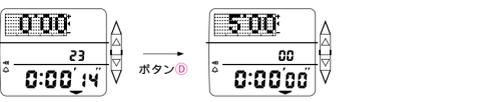
ボタンCを押すとオートスタート時間がタイマーのように減算し、0秒でストップウォッチが自動的にスタートします。(減算中の途中ストップ、再スタートもできます)



【ご注意】  
・減算中に途中経過を知らせるため、残り「1分」「30秒」「10秒」の時に、「ピピ！」と音が鳴ります。最後の3秒前には「ビップ、ビップ、ビップ」と音が鳴ります。  
スタートしてからは、通常の操作ができます。



【ご注意】  
・ストップウォッチがスタートしてからオートスタートでスタートしたことを、オートスタート時間表示部の「0 00」で確認できます。  
ストップウォッチ使用後、リセットする前に合わせたオートスタート時間が設定された状態になりますので、設定を変える場合は操作 から行ってください。



## ■ワンタッチアラームの使いかた(1分単位 24時間以内) 1-AL

- ・「時刻・気圧表示」からワンタッチアラーム表示を呼び出し、設定します。
- ・約1分先から24時間以内のアラームセットが可能です。
- ・現在時刻からアラーム時刻をセットできるの間にアラームセットに便利です。
- ・1回鳴るとアラーム時刻は自動的にキャンセルされます。
- ・ボタンAを押して「時刻・気圧表示」にしてください。
- ・ここで、ボタンCを押すと、「ワンタッチアラーム表示」になります。



このときワンタッチアラーム時刻の表示部に「現在時刻(時・分)」が表示されます。  
【ご注意】  
・このままではワンタッチアラームは鳴りません。  
・この状態でボタン操作がない場合、1-2分で「時刻・気圧表示」に戻ります。  
ボタンCまたは、ボタンDを押してアラーム時刻をセットします。

ワンタッチアラームマーク  
ボタンC：1回押すごとにアラーム時刻が1分進みます。押し続けると早く進みます。

### 【ご注意】

- ・アラーム時刻がセットされると「1-AL」にマークが点灯します。
- ・ボタンCまたはボタンDを押して現在時刻の時分表示と一致した場合、自動的にワンタッチアラームはキャンセルされます。(「1-AL」のマークが消灯します)
- ワンタッチアラーム時刻の合わせが終わったら、ボタンAを押して「時刻・気圧表示」にすることを勧めます。ボタンDを押され、アラーム時刻がずれるのが防げます。
- ワンタッチアラームセット時刻になると、アラームが20秒間鳴ります。
- 【ご注意】  
・アラーム鳴鐘が終わると、自動的にワンタッチアラームマークが消灯します。  
・「水深・水温計測表示」では深度アラームとの誤解を避けるためワンタッチアラームは鳴りません。

鳴っているアラーム音を止めたいとき  
鳴っているアラーム音を止めたい場合は、ボタンA、B、C、Dのいずれかを押してください。

ワンタッチアラーム時刻の確認とキャンセル  
・セットしたワンタッチアラーム時刻を確認したい、

ボタンAを押して「時刻・気圧表示」にし、ボタンCを1回だけ押してください。  
このとき、セットしてあるワンタッチアラーム時刻が確認できます。  
ボタンCまたはボタンDを押してワンタッチアラーム時刻の修正ができます。  
このとき、ボタンCとボタンDを同時に押すか、ワンタッチアラーム時刻を現在時刻の時・分表示と一致させると、ワンタッチアラームのキャンセルができます。  
【ご注意】キャンセルされると「1-AL」のマークが消灯します。

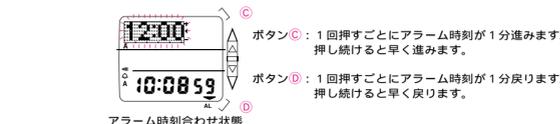
## ■時刻アラームの使いかた(デリアラームと時報の設定) AL

- ・1日に1回鳴るアラームの設定ができます。(24時間に1回)
- ・ワンタッチアラームとは異なるアラーム音になっています。
- ・時報をセットすることもできます。

アラーム時刻の合わせかた  
ボタンAを押して時刻アラーム表示にしてください。



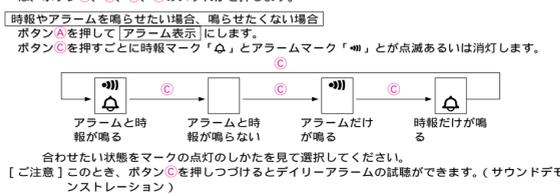
ボタンBを押すとアラーム時刻が点滅し、アラーム時刻合わせ状態になります。  
この時、ボタンCまたは、ボタンDを押してアラームを鳴らしたい時刻に合わせます。



【ご注意】アラーム時刻を合わせると自動的にアラームマークが点灯します。  
アラーム時刻を合わせ終わったら、ボタンBを押して時刻アラーム表示に戻してください。  
【ご注意】アラーム時刻合わせ状態で1-2分ボタン操作がない場合、時刻アラームに戻ります。  
アラームセット時刻になると、アラームが20秒間鳴ります。  
【ご注意】「水深・水温計測表示」では深度アラームとの誤解を避けるため時刻アラームと時報は鳴りません。

鳴っているアラーム音を止めたい場合  
あらかじめセットしたアラーム時刻になると、アラーム音が20秒間鳴ります。途中で止めたい場合は、ボタンA、B、C、Dのいずれかを押します。

時報やアラームを鳴らせたい場合、鳴らせたくない場合  
ボタンAを押して「アラーム表示」にします。  
ボタンCを押すごとに時報マーク「」とアラームマーク「」と点滅あるいは消灯します。



## ■電池交換後のお願い(システムリセット)のご注意

- ・電池交換後や、万一異常な表示(読めない表示など)になった場合、以下の操作をしてください。  
時計内部のシステムがリセットされ、正常に機能するようになります。
- 【ご注意】この操作をすることで記憶しているデータが消えてしまいますので「電池交換にあたって」をお読みください。

システムリセットのしかた  
すべてのボタンA-Dを同時に3-4秒押し続けてください。  
表示が一旦消え、時刻はA12:00、日付けは、1月1日になります。

ご使用前に下記の順番で操作してください。  
時刻カレンダーの合わせ  
気圧調整(必要であれば) それぞれの項目をご参照ください。  
アラームの設定

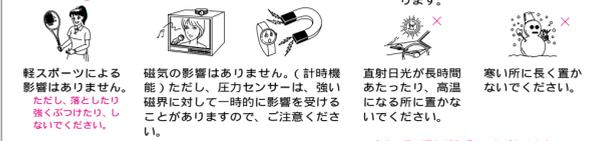
電池交換後およびシステムリセット後のご注意  
・電池交換後や、システムリセット後はすべてのデータが消去されていきますので、気圧グラフや気圧傾向表示が、しばらく機能しませんのでご注意ください。  
時刻・気圧表示内の気圧グラフ  
気圧傾向表示について  
最初に表示されるのは、まん中の気圧変化なしに表示です。実際に気圧の変化傾向を表示できるまでに12時間はかかるお考えください。気圧変化の割合によっても多少異なります。  
左側のグラフが表示されるまでに24-30時間かかります。これは24時間前の気圧値と比較したデータを6時間毎に表示するため故障ではありません。よって気圧グラフが右端まですべて表示されるまでには、6日間以上かかることになります。

## ■お取扱いにあたって

	洗面や雨など一時的に水がかかる場合	水泳や水仕事など長時間水にふれる場合	空気ポンベ使用しないキンドイビング	空気ポンベを使用する本格的な潜水	水滴がついた状態でボタンAの操作
非防水	X	X	X	X	X
日常生活用防水		X	X	X	X
日常生活用強化防水			X	X	X

非防水の場合、水や多量の汗にご注意ください。万が一水や汗でぬれた場合には吸水性の良い布などで水分をとり除いてください。時計の内部にも多少の湿気がありますので、外気計内部の湿度が良い場合にはガラス面が曇る場合があります。  
※もしも長時間消えない時はお買い上げ店またはアルバ取扱店にご相談ください。

この時計は常温 5 - 35 の範囲内で実際に時計に安定した精度が得られるように調整してあります。



少々の曇りや汚れが生ずることがあります。常温にもどれば曇る精度にもなります。曇りや汚れがひどい場合には、ガラス面に曇り止め剤を塗布します。曇りや汚れがひどい場合には、曇り止め剤を塗布します。曇りや汚れがひどい場合には、曇り止め剤を塗布します。

## ■長くご愛用いただくために

点検のおすすめ

ケース・バンドのお手入れ

電池交換時または2-3年に1度の点検をおすすめします。修理時、潤滑油や汗や水分侵入の有無などを、お買い上げ店またはアルバ取扱店にご相談ください。点検の結果によっては、分解掃除を必要とする場合があります。分解掃除の際には、時計の内部を傷つけないようご注意ください。

ケース、バンドは肌着類と直接肌に触れさせてください。汚れたままにしてしまうと、汗や皮脂の汚れが、かぶれやすくなりますので、定期的に清潔にしてください。

バンドは多少劣化をきたす性質を帯びており、特に金属バンドについては、時々擦れや傷や折れ等が生じることがあります。その際、時計本体には決して水が掛からないようにご注意ください。

水銀

薬品

静電気

水銀、体温計を破壊した場合は、化学薬品、ガラスなどに触れることがないようにしてください。水銀が漏れ出す場合があります。

プラスチックケースの場合、ケースの材料として、プラスチックを使用している場合があります。アクリル、ガラス等の薬剤、化粧品などのスプレー液、クレンジング剤、除菌剤、漂白剤が付着します。化学作用により、ケース、バンドなどの変色、酸化や劣化の原因となる場合がありますので十分ご注意ください。

時計に使用されているIC集積回路は、静電気に弱い性質を帯びています。袋入りの時計本体には、静電気が発生している場合がありますので、静電気を帯びた手で時計本体に直接触れないようご注意ください。

## ■電池についてのお願いとご注意

電池寿命  
この時計は、新しい正常な電池を組み込んだ場合、その後約3年動作します。  
ただし、アラームを1回1日20秒、ランプ1日5秒、水深・水温計測を1回1時間使用で50回を基本としています。そのため、実際に使用した場合は、3年に満たないうちに電池寿命が切れることがあります。  
この時計には、工場出荷時に時計の機能を点検し、性能を確認するために使用した電圧モニター電池(機能検査用電池)が組み込まれていますので、お買い上げ後に3年以内に電池寿命が切れることがありますがご了承ください。  
電池寿命が切れた場合は、保証期間内であっても電池交換は有料となります。

電池寿命切れ予告機能  
下図のような表示がでると、2-3ヶ月中に時計が止まる可能性があります。お早めに電池交換を行ってください。



【ご注意】このマーク点滅中でも時刻および気圧(水深を含む)と温度の計測は正確です。

さらに電池寿命切れに近づくとき、「」が点灯に変わります。2-3日中に時計が止まる可能性がありますので、お早めに電池交換を行ってください。

水深水温計測の中止について  
マークが点灯に変わると、水深・水温計測は中止します。よって「水深水温計測表示」に切り替わった場合、下図の表示になります。



【ご注意】  
気圧計測は引き続き行いますが、使用環境によっては、気圧の計測に影響が出る場合があります。

電池交換にあたって  
この時計は、電池交換する時や、電池寿命が切れた場合、それまで記憶していたデータが消去されるので、あらかじめ保存しておきたいデータは書き写しておくことをおすすめします。影響を受けるデータは次の項目です。  
最大深度・潜水メモの内容がすべて消去されます。  
気圧調整は、調整値が「0」になります。

電池交換は必ずお買い上げ店、またはアルバ取扱店で「アルバ専用電池」とご指定の上、ご用命ください。  
時計から電池をとりだした場合は、電池は幼児の手が届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。